

The 29th Annual Congress of the European College of Sports Science 参加報告書

広域科学専攻 生命環境科学系 中澤研究室 博士2年 益城 優芽

「博士・修士課程のための国際研究集会渡航助成」を受け、2024年7月2日から5日にかけてスコットランドのグラスゴーで開催された The 29th European College of Sports Science (ECSS) に参加した。ECSS は、スポーツ、運動、身体活動、健康に関する世界トップレベルの学際的な研究を推進し、その応用を目指す学会であり、毎年スポーツ科学の多様な分野の研究者が集まり発表を行う。今年度は、アプリを活用した学会運営が行われ、要旨の検索やセッションの予約、スケジュールの管理が事前に可能であった。

筆者は「Facilitation of corticospinal excitability during recalling autobiographical fear memories」という題目で、Young Investigator Award 候補者として口頭発表を行った。この研究は、喜びや悲しみ、恐怖、怒りなどの情動を喚起する記憶を想起している際に、皮質脊髄路の興奮性がどのように変調するかを調べたものである。質疑応答では、心理行動学の専門家から予期しなかった質問があり、即座の回答に苦勞する場面もあったが、発表後にその先生と直接お話しする機会があり、新たな視点で議論できたことは非常に有意義であった。残念ながら Young Investigator Award は逃したが、来年度に再挑戦する意欲が湧いている。

また、研究発表以外にも、学会主催の Bengt Saltin Run に参加し、5.4km のコースに挑戦した。軽い気持ちでエントリーしたものの、当日の参加者のレベルの高さには驚かされた。若干の小雨の中で行われたマラソンであったが、全員無事に完走し、上位の参加者はまさにトップアスリートのようなようであった。この経験を通じて、スポーツ科学の研究者として自身の健康維持やスポーツを楽しむことの重要性を改めて認識することができた。

今回の学会参加は、今後の研究へのモチベーションを大いに高めるものとなった。円安の影響を受けながらも、このような貴重な国際学会に参加できたのは、広域科学専攻の渡航助成があったからこそである。この支援に深く感謝し、今後の研究活動に一層邁進していく所存である。



左：口頭発表の様子 右：会場の外観